

令和4年度「障害理解の促進ワーキング」について ～当事者が調布市において、継続的に学び、発信できる仕組みを考える～

1 目的

社会モデルの視点を持った障害当事者講師を継続的に育成するための仕組み作りを検討する。その中で障害理解を普及啓発していく人材（当事者）育成のための研修プログラムを具体化すると共に実施方法について協議する。

2 ワーキングにおいて取り組む主な内容について

昨年度まで実施・検討してきた障害当事者講師養成研修の学習プログラムを事業化の枠（基礎研修・フォローアップ研修）に落とし込む作業を行う。また、養成研修を修了した方たちの活躍の場の確保についても検討する。当事者による障害理解研修のニーズに関して、市内企業等を対象にニーズ調査を実施する。

3 ワーキンググループメンバー(敬称略)

座長 谷内 孝行	(桜美林大学 健康福祉学群 准教授)
	(当事者)
	(当事者)
	(当事者)
	(当事者)
大澤 宏章	(NPO法人 羽ばたく会めじろ作業所 施設長)
佐藤 祐香	(社会福祉法人 調布市社会福祉協議会 調布市こころの健康支援センター)
新井 敦子	(社会福祉法人 調布市社会福祉協議会 ドルチェ)
吉野 強	(社会福祉法人 調布市社会福祉事業団 調布市障害者地域生活・就労支援センター ちょうふだぞう)
大光 加奈子	(社会福祉法人 調布市社会福祉協議会 調布市福祉人材育成センター)

4 事務局

新樹会 地域生活支援センター 希望ヶ丘
調布市障害福祉課

5 令和4年度のワーキングにおける成果目標

障害理解を普及啓発していく人材（当事者）を育成する研修プログラムの具体化と共に、研修修了者が活躍できる体制整備を目指す。